
川上泰彦教授とのオンライン協議内容

【令和5年6月21日（水）の欠席分の代替措置としてオンライン
ヒアリング】

日時：令和5年7月11日（火）午前11時

場所：明石市役所分庁舎4階教育委員会室

出席者：川上泰彦教授・西山総務担当課長

三ノ浦企画総務担当係長

（三ノ浦係長）

それでは早速なんですけども、本日はご覧いただいた映像のコメントについて順次お伺いをしていきたいと思っております、5つに分けてご意見を頂戴いたします。区分については、第1回目のヒアリングと同じように、方策がそれぞれありましたので、3項目ないし4項目ずつご意見をいただきたいのと、最後に、このたびの点検・評価のヒアリング全体を踏まえまして、実施方法ですとか、資料の作り方、もしくは進行方法につきまして、何かご助言等ありましたらいただけたらと思っております。

ではまずですね、方策1-3「特別支援教育の推進」、1-5「就学前教育の充実」、2-1「グローバル教育の推進」について議論等ご覧いただいて何か学識の見地からご意見があればよろしくお願いたします。

（川上教授）

まず、特別支援の成果指標で、個別の指導計画の作成率のところの議論があったかと思えます。どちらがどうすべきだという話になかなかかなりにくいのですが、保護者同意の有る無しで、指導計画を立てられる、立てられないが変わってくるという話で、それはその部分もあるだろうなと思いつつ、少し考えたのが、保護者同意を取っていくことも、この領域にとって大事な成果なんだとすると、この指標のまま

で、保護者同意を取ることも目指していきましょうというメッセージでやっていってもいいと思いますし、一方で、支援体制の充実というような形で、指標を立てていく場合だと、市教委、各学校の努力でできるものに指標を修正するという手もあると思います。

学校が頑張りさえすれば、とか、市教委が頑張りさえすれば、数値が上がるものにしておくことが、そのやりたい評価に直結しているのか、それともその途中で、保護者さんの同意を得ていくことも大事な指標のうちだと考えていくのかによって、指標の取り方が変わってくるのかなという気がしていて、その辺りを少し煮詰めてみるのがいいのかなというようにことを思いました。

それともう1点、就学前の話とかともやや繋がってくるのですが、個別のご家庭のお子さんへの支援の部分と、困ったことがあったときに、教員なり学校なり保育者なりが、どこかにアクセスできる、どこかに問い合わせができるという体制みたいなものも、多分この中では考えていった方がいいんだろうなと感じました。

それと、1の就学前で言うと、多分いろんな形で繰り返しお伝えしてあって、なかなか難しいところでもあるんですけど、私立園への浸透支援をどうするかという問題については、やはり引き続き考えていく必要があるのかなと思います。都市部の就学前教育なので、設置形態、設置者いろいろ入り乱れている感じではあると思います。ですので、あまり公立の園で行っていることとして閉じてしまうというよりは、そこをきっかけに、市内にどう浸透させていくかというところは一つポイントになるかなと思います。

そういう意味で、先ほど申し上げたような、保育者なり、学校園なりから、市教委へのアクセスだったり、問い合わせだったりというよ

うな体制についても、考えていくのがいいのかなと思ったりしました。

あと、これも後の方でご意見があり、市教委の方でもご回答されていた記憶があるのですが、就学前教育の充実とかだと、保護者支援との接続とかは視野に入れた方がいいのかなと思います。入っていると思うのですが、子育て支援の推進の部分との乗り入れだったりといったところで、「乳児について」というご指摘があったような気がするのですが、何か幼児よりも乳児になればなるほど、園でどうするというよりは、家庭向けの支援だったり、保護者向けの支援だったりといったことの要素が大きくなるのかなという気がしました。

その辺りのご対応をされるのであれば、保護者にアクセスするところを調整していくのがいいのかなという感じがしました。

それから、グローバルについては、成果指標のとり方が難しいなと思っていました。今日でいえば、最後にまたお話ができればと思うのですが、成果指標が本当に出口の出口になってしまってるというか、本来だったら取組内容が研修会の実施だったりとか指導助手の配置だったりするので、事業内容がこんなふうに改善したといったことや、研修に参加した人の外国語教育、英語教育についてこういう変化があったというところが、多分その前の段にあって、それがうまいこといくと、子どもが英語に接しやすくなったりとか、英語の時間が好きだというふうに出てくると思うので、何かもう一段前の成果指標が取れたりすると、見直しに使いやすい部分があるのかなという気がしていました。最初の1セクション目からすると、その辺が気になった点でした。

(西山課長)

成果指標全般に言えることなんですけれども、成果指標を取ること

へのコストの部分で、なかなか前向きな変更は難しくなっているところ
はあります。全国学力・学習状況調査の質問紙を主に取らせていただ
いてるんですが、それ以外に個別アンケートを新たにやるというのは
少しコストが高いなという認識をしております。この項目に限らずな
んですが、何か他の事例とかでこういったものを指標に取れるのでは
ないかというところで何か思い当たることなどございますでしょう
か。

(川上教授)

実の事例までまだ存じ上げてないのですが、時々、ご提案をさせて
いただいているのが、学校評価に共通指標を入れていくとか、学校経
由で日常的に取っておいてくれれば、市教委で改めて取り直しをしな
くてもいいものっていうのが多々入っている気がします。ですので、
日常の学校教育活動の中で、おそらく取っているであろうデータとか
が市教委に上がってくる仕組みがちゃんとできると、各学校の見直し
で使っているデータがそれっきりになっただけで済むところがある
のかなというふうに思ったりしました。

前回の、例えば学力関係や指導方法といった学校教育絡みは結構多
いと思います。あとは、各学校の評価をする上で子どもの様子がどう
だとか、学習習慣がどうだといったことはあると思います。特に、学
習習慣とかは、生活アンケート的なもので、学校で取っていたりする
と思います。ですが、おそらく学校ごとに指標の取りようがバラバラ
になっていたりすると思いますので、この項目で取ってほしいとい
うのが市内の学校で了解得られたりすれば、各学校の見直しでそれを使
ってもらって、データだけ市教委に上げてもらうということをする
れば、市教委の点検・評価のデータにも使えるということになると思
います。もう少し、学校で取っているデータとの連携みたいなことがで

きると、新たな手間を作らずに済むところがあるかなといったことは思いました。

(西山課長)

ありがとうございます。大変参考になりました。おそらくは、多分学校に任せているところが強くありそうなので、おっしゃる通り、教育委員会の方で前さばきをして統一化していくという方向で、少し本腰を入れれば、効果的に機能しそうな気がいたします。どこが担当するのかといったところで少し課題はありそうですが、学校教育課と議論、協議させていただきたいと思います。

(川上教授)

各学校でどのような生活アンケートを取っているとか、学校評価用アンケートはどのように取っているという調査票だけでもまず集めてみて、こんな文言に統一して、ここだけ調整したら市の分でいけそうというようなものが出てくるのではないかなといったことは思ったりします。

(三ノ浦係長)

続いて、方策 2-3「情報教育の推進」、2-6「主権者教育の推進」、3-3

「学習機会の創出」について、ご助言いただければと思います。

(川上教授)

情報については、後で ICT のところでもお話しすることになると思いますが、端末の持ち帰りに向けての工夫、改善だったりとか、情報教育含めて、次のステージに行こうとしてるんだろうなという感じが強く伝わってきていて、これまでベースの評価というよりも、もう少し深めたやり方に向けての評価というのが、次に必要になるのではないかなというのが一点です。

あと、もう一つが、ICT の利活用でいうと、これもさっきの話と通じてしまうのですが、あまり細かく取ると、多分、嫌がられると思います。小中学校での使用頻度というのは、出口の出口にする前の指標

のとり方としてやや適切などころがあるかなと思います。

指導する能力というところや、ご家庭での約束の話も両方大事なんですが、一方で、その主な取組内容との対応関係でいうと、その成果指標に現れないで既に指摘していただいているような、学校での使用頻度が高いということがもう少し数値に出せるのであれば、それは、今わかっている肌感を、きちんと指標にしていくだけの話なので、評価として使いやすくなるかなという気もしています。

他についてもそうなのかもしれないのですが、調査をするのは、やはり全市的に行った方がいいのでしょうか。なんか、学校の大きさ別ぐらいで抽出をしてみて、3年一回りで全校調査しますといったような感じにしておくとか、例えば、ICT機器の利活用状況についてというのは、全市的に調査をかけるというと、多分、大変面倒くさいことになると思います。ですので、3年一回りでできる感じで、学校のサイズ感や地理的な配置で偏りが出ないようにということだけ気をつけておいて、2年、ないし3年一回りでデータを取っていくといったようなやり方も、さっきの話に少し繋がりますがあるのかなと思いました。

この項目に直接関係してっていうところで言うと、成果指標に現れないで書いていただいているところを、何らかの形で成果指標に載せていっても、施策の性質上しっくりきた指標になるのではないのかなという印象を持ちました。

それから、主権者教育は、委員の皆さんからのコメントにも出ていたと思いますが、少し選挙に寄せすぎているという印象は持っていて、特別活動とか、生徒会、児童会活動とかを通じた主権者教育については、もう既にされている部分もありますし、意識なく行っている

学校とか先生方がいるのであれば、そういうメッセージにもなると思います。主権者教育って選挙の話だけではなくて、ルール作りをするとか、身近な人たちとの合意形成をするとか、調整するというのも、実は大事な主権者教育ですよってという意味で言うと、そっちを少しデータを取れる形にしていたり、取組内容の方にも挙げていただいてもいいのかなと思いました。

各教員の授業内での工夫というところで、どんな工夫をされたのかを集めるだけでも、意義があるのかなという印象を持ちました。

それから、学習機会についてですが、コメントがワンパターンになりつつあるのですが、成果指標のところは、学習機会を取った後の話になっていて、十分な学習機会を取りましたというところを、まずきちんと評価に入れておくということをして良いのかなと思いました。ですので、実施内容で挙げていただいているところは、そのまま成果指標になるのではないかとということと、あとは評価そのものというよりは、この施策についてのコメントになりますけど、おそらくこういう子どもに機会を提供したいというイメージがあると思います。

家に帰って学習機会が豊富というわけではない子どもに対して、どれくらい提供できているかというのが一つのポイントになっていくと思うので、これはちょっとオフィシャルな成果指標には載せにくいと思うのですが、各学校向けへの周知としては、誰に届けたいのかっていうのに対して、誰に届いているのかっていうのを見ておいた方がいいのかなという気がしています。必要な子に届いているか、とにかく届いた数で、見たときだけ見てしまうと、本当に届けたいところには実はそんなに届いてませんでしたといった話になると、すごく施策としてはもったいないという気がします。

各学校でこの辺のご家庭に届くといいなという一定の想定はあると思うので、次に取れたり、意識できたりすると、次のステップにいけるような感じがしました。

(西山課長)

ありがとうございます。

今回は「取組内容」、それから「成果指標に現れない成果」というところを、指標を補うという形で整理をつけていたのですが、そこをしっかりと書けば書くほど、指標に格上げできるんじゃないかというようなご指摘であったと思います。その辺は安定的に、この数字を取ってるかということ、特に「成果指標に現れない成果」、多分、明石が ICT タブレットの使用率が高いっていうのは、継続的に取ってるかというところ、怪しいなというところがありましたので、継続的に取ってるのであれば、おっしゃる通り、成果指標に挙げてしっかりと見ていくべきだと思いました。そちらは検討していきたいと思います。

あとは、施策の取組回数なんかにつきましては、おっしゃる通り、すぐにでも指標化できるかなと思いますので、そちらは進めてまいりたいと思っております。

(三ノ浦係長)

続いて、次の項目に移らせていただきます。

方策 4-2「正しい生活習慣への支援」、5-5「キャリア教育の推進」、6-4「教職員の資質向上」について、コメントをよろしくお願いいたします。

(川上教授)

生活習慣は「指標なし」だったのが少し驚いたというか、学校ごとにとっている生活習慣関係のものだったりとか、学力・学習状況調査とかの生活習慣関係のものだったりとか、収集できるデータがあるのではないかと思うと、こういうところは使ってみるのがいいのかなという気がしました。

それから、委員さんのコメントの中でも、やや食育に寄ってるというご指摘があったような気がします。運動とかについては、多分、基礎体力の方でやっているの、見るとすると、基本的な生活習慣だったりとか、もう一つ個人的に関心があるのは睡眠だったりとか、そういった辺りは少し見てもいいかなという気はしました。

そのあたりは、多分、各学校で生活だったり、保健関係で調査を取ったりもしているような気がするの、繰り返しになりますが、学校で取っているデータとも連携が取れたりすると、この辺の話は試験的にでもいけるのかなと思います。全校取れない場合でも、今、データを取っている学校からデータを提供してもらったところはこんな感じでしたということで、使えるような気がします。

繰り返しですけども、学校に眠ってるデータを探しておくというのは大事かなという気がします。

どこもそうですけど、市教委単独でこれ以上データを取り直そうと思うと多分大変なことになると思います。別立てで調査を学校に下ろしたとしても、何に使うのかといった話になりかねないと思うと、既に取りってる分について一部ほしいとか、連携するよっていうやり方がいいのかなと思いますし、使い道にもなるような気がしてます。

あと、キャリア教育について、成果指標が「トライやる」になっていて、通常の活動で取れるデータはないかというのは、これまでの繰り返し感があることが一点と、もう一つが、「成果指標に現れない」のところで、事前、事後の活動を各校に委ねている部分があったので、今後協議を行ってきますという話で、成果指標に使うぐらい「トライやる」が大事なんだとすると、事前、事後の活動をどうするかみたいなのは、その「トライやる」の質の向上とかに向けて、取り組むべき

ところだったり、協議がちゃんと行えているかというようなところは、評価の対象にしていくとか、次の取組に入れていくような形なのかもしれないです。

事前の調整なり、事前、事後の活動についての充実を図りますということ、取組内容に入れていってもいいような話のように感じました。そこが評価できたらそれはそれでいいことのような気がするので、そんなところを思った次第でした。

あとは、明石商業の項目が、かなり分厚く書いていただいて、力を入れているのがよく伝わってくると思いました。感想ですけど、良くされてるなということが伝わってきました。

ここは引き続き、しっかり取り組んでいただきたいなというふうに思いました。

(川上教授)

質問なんですけど、免許外教科のサポート事業は市の事業でしょうか。

(西山課長)

市の単独事業で、例えば、技術家庭の先生につきましては、比較的小規模の学校においては、専門教諭が配置できない学校がありまして、そういった免許を持つてる OB の方等を派遣するような事業をしております。

幸い昨年度につきましては、欠員が出なかったというところで、使っていないという形で報告をさせていただきましたが、何年か前は、1 学年 2 クラスぐらいの比較的小規模の中学校で、技術家庭の専門教諭が配属できなかったところについて、そういった教科外の専門の OB の方をお願いして、派遣する事業があったということがあり、それが何年か続いたと聞いております。

(川上教授)

すごくいい取組だなと思っていて、聞いていて思ったのが、免許外

になる前の策として、例えば、臨時面で、助教諭で何とかするケースが出てくる場合だったりとか、だいぶブランクがある方をお願いをするケースで、免許を二つ目持ってるからやってもらっただけど、ここ数年とか、免許を取って以来その授業をしたことがないという人が出てくると思います。

うちの大学でも、中学校免許を複数取らせることを行ってはいるのですが、初任から何年も使ってなかったときに、急にこの免許を使えと言われても相当しんどいだろうなという感じはしつつやっております。そういう臨時面を出したときとか、ブランクありの免許活用するときとかにもなんかいけそうな事業に思えたんですね。免許を持ってないという要件にはあまりこだわらずに、今年度ギリギリで免許を出してるケースとか、久方ぶりにやる場合、免許は持っているけど教職に就いていなかった方とかを、この先、活用したりといったことが出てきたときにも、サポート事業は活用の余地があるのかなと感じました。

(西山課長)

どちらかというと、先生の育成で使うという視点でいらっしゃいますか。

(川上教授)

半々ですよ。その場で回らないところをどうするかっていうところ、あわよくば育成まで繋がればというところだと思うんですけど、最初お聞きしたのは、県の事業だったりすると、多分適用の要件が入ってきたりとかがあると思いますが、市の単独だと、多分その適用の要件をいじる余地はまだ市の方であるなと思うと、せっかく枠組みがあるんだったらそういう形で、免許を持ってる人を確保するのが大変な事象に対してのフォローアップで使えますよっていうことをしておくっていうのも、何か今どきの使い方としていいのかなって

う印象を持ちました。

あとは、あかし教育研修センターの研修事業の見直し重点化の話は、なるほどなと思って聞きつつ、難しいなと思ったのが、メニューそのものを増減させる部分と、オンラインを併用することで受講がしやすくなっているはずなので、やっぱり自発性を大事にしたいなということがあります。自分で決めて自分で取りましたという研修を選ぶという経験みたいなのは大事にしたいなという気がしたのが一点です。

あとは、免許更新制度がなくなったのに合わせて、研修履歴の管理だったりとか助言っていうのが入ってきてると思うので、研修センターの方でその辺の管理は多分されてると思うのですが、管理の後の助言のことで、校長向けの情報提供だったりとか、もしかすると、研修助言に関する校長の支援とかっていうことが大事になるかもしれないです。やったことがないことを多分お互いやらないといけなくなってくるので、メニューを出していくっていうのもこの後すごく大事なものは変わらないのですが、履歴管理とその活用みたいところで、学校向けの支援だったりというところにも、実は重要性が出てくるのかなと思います。代わりにセンターの方で助言や支援をしますといった解決方法もあるでしょうし、やっぱり助言するのは校長の仕事だから、校長向けに助言について支援をしましょうとか、情報提供しましょうというやり方でいくのか、センターからすると直接やるのか間接的に支援するのかっていう2方向ある気はするのですが、こここのところの動向を見ると、その辺についても一つ活用の余地というか、活躍の余地があるなという感じがしました。

(西山課長)

ありがとうございます。

おそらくは、校長業務の多忙化であったり、人によって質の差が出てしまうところもあるので、センターが多かれ少なかれ関わっていかないと安定的な支援には繋がらないんだろうなというところは思いますので、貴重なご提案をいただいたなと思っております。

ただ、実態としてもう既にされているところもあるのかなと思うんですけど、我々すいませんちょっと教育現場のことがそこまで把握できてないところもありますので、そこはしっかりお伝えした上で、足りないところがあれば制度化するなり、重点取り組みに掲げていくようにしていきたいと思っております。

(川上教授)

多分もう始めてらっしゃる方で上手な方とかいたらその辺から入ってくるような気がします。

(三ノ浦係長)

あと、こちらの資料は、6月21日の追加資料としてお出しをしております。順番にいきますが、タイトルは、研修内容の見直し重点化ということで、背景といたしましては、書いてある通り、中核市になって市の方で独自に研修を実施いたしますということと、実際に現場においては多忙化が進んでおりますので、若手教員を研修に送り出す時間、体制が十分ないということが課題となってきたというところで書かせていただいております。

実際にそうした背景を受けまして、見直しの方向性、重点化ということで、この4つの項目を重点化いたしますということで、学習指導、生徒指導、特別支援教育、ICT教育に重点化して、その内容を精査して、さらに日数を減らし、若手教員の負担軽減を図るということで、超過勤務の縮減、メンタルヘルスの保持および子どもと向き合う時間の確保をするということで、見直しをされたということでございます。

こちらに図示をしてありますが、いろいろなものがありますけれども、この4つを重点化して対応しますということで、具体的には以下、年次研修ですとか、2年次研修、この辺りの見直しの内容を、総日数を1日減らしましたとか、あとは、オンライン研修に切り替えましたとか、学校から参加できるようにVODオンライン研修を実施しますということと、出張日数を具体的に減らしたというところでございます。

さらに現場で求められているところとしての学習指導の数を増やしました。実際には、減らすばかりではなくて、さらに必要な講義については重点化して、講義時間を増やすなどして、メリハリをつけていったということの説明がございました。

2年次研修、3年次研修についても、同様のですね、出張日数を減らすことと、より必要な内容については重点化して講義を行うというところで、見直しをしたというところでございます。

続いて、ライフステージ研修についても同じで、回数を減らすとか、実施時期を夏休み中に実施するなど、より参加することに負担の少ないやり方で、研修の方を随時見直しを行っているというところでございます。

その他、あかし若手教師塾なんかについては、時間が6時から7時半になってたものを、あまりに遅いということで、5時半から7時とかですね、夏季休業中は見直して3時から4時半とか、残業ありきのこういった取り組みも見直しをしています。

専門研修についても、回数の削減ですとか、重点的な項目については、必ず参加をしていただくとかですね、こういうふうにメリハリをつけて、それぞれ重点化をしているというところでございます。

それでは、最後の4つ、6-6「子育て支援の推進」、8-1「学校安全性の向上」、8-2「学校環境の整備」、8-3「ITC環境の整備」についてご助言いただきますようお願いいたします。

(川上教授)

子育て支援の推進については、非常に詳しいというか説明をいただいていたかなというふうに思って聞いていました。

交流の場の提供だったりとかというのは、昨年度、少しずつ戻していったところかなと思っておりまして、おそらく繋がれてない親子をどう減らすかみたいなのがポイントになるんだろうとか、市としてなかなか把握ができていない状況をどう減らしていくかっていうのが大事になって、そのための、なるべく把握できる機会をたくさん提供するっていうのが鍵になってるのかなと思って聞いておりました。

そういう意味では、教育委員会の点検・評価の領域からちょっとはみ出るのかもしれないですが、乳幼児保健関係で、乳幼児の保健指導とかの領域との連携が大事になってくるんだろうなというところかというと、その辺を少し視野に入れた活動とかが、この後進むといいなという気がしました。

それから、学校の安全性の話で言うと、地域連携関係ともう少しかぶってくるかなと思うんですが、見守りの人数について、幼児、児童、生徒に対する見守り登録件数で、おそらく1回登録するとずっと登録ですよ。

(西山課長)

基本的にはそうなります。

(川上教授)

コミュニティ・スクールのボランティア人材のリストとかにもありがちな話なんですけど、登録後、活動がままならなくなる人でも、リストからは消えないんです。通学の見守りをしてくれる老人会とかで登録はしたんだけど、ちょっと動くのがきつくなってしまった人もリ

ストには残っていったりとかするので、この場合も目標値の達成はもちろんめでたいことではあるんですけど、一方でその実働がどれくらいかということがあると思います。だから一旦多分その登録数としての成果は出して達成したとなると、今度はその実働の比率だったり、実働の状況とかっていうのをいかに維持していくかと言いますか、特に見守り関係でいうと、お年寄りをお願いする場面も多くなると思うんですけど、そうすると、常に人を新しくしておかないと、いつの間にかその実働がすごく細ってるっていうようなことが起きかねないので、実働の確保って大事かなっていうことを少し思いました。

あとは、施設関係について、環境整備とやや合わせてのところではあるんですが、安全性の向上の中で、成果指標に現れないところで、改修工事の実情も書いていただいている、これも何か評価のというよりは、各学校からここら辺が危ないとか、こういう改修が必要だという話が届きやすい形をいかに維持するかっていうのは大事なところで、その辺が環境整備を計画立ててやるところと、やや悩ましいところかなと思います。

重要だという話をしても、順番ありきだとなかなか回ってこないみたいな話になると、そもそもちょっと危ないんだけど、要求してもどうせ改善されないから要求しなくていいといった話になってしまうと、改善が遠のくので、ちゃんと言え、ちゃんと補修をしてくれるということを、学校にしっかりと見せておくというのは大事なことかなと思います。8-2の方は、やっぱり計画に沿って粛々と進めることに価値を置いている一方で、緊急性の高いものについては、ややそことバッティングしてでもとか、そこと順番が前後することがあったとしても何か対応するみたいなところで、どの辺のバランスでやってい

くのが難しいところではあるのですが、両方見せておくのは、危機管理上も大事かなというような気がしていました。

あと、面白いなと思ったのは、標準服の導入、準備の話なんかは、実はこれって、今日で言うと主権者教育の部分に近いのかもしれませんが、主体性ある子どもの育成みたいところで、こういうことに意見が言える場をきちんと作っているという意味でいうと、何かここに留めておくには勿体ない成果かなとか、こういうことに意見が言えて、意見を言うと実現ができるんだよという環境をちゃんと整えておいてあげられるというのはすごく大事で、校則の見直しの話とかも同様で、参画の機会はちゃんと取っておくというのは大事かなと思います。

これはちょっと余談というか、聞き流していただければと思いますけど、制服とか、校則の見直しは一回終わるとしばらくしなくていいなっていう話でいうと、生徒の意見を出して改善に結びつくような事柄っていうのを、少しずつ用意してあげるということは大事だけど、次、何があるかなっていうことを、あまりよくわからずに聞いてたんですけど、でも多分そういう機会を、そのときそのときの中学生なりが体験してるっていうのは、この後考えたときに、ルールづくりに関わった経験があるということは、すごく大事だろうなと思うと、もしよかったらそういう機会っていうのを、この後も何か準備してあげられるといいなっていう気がしました。

最後、ICT ですが、情報教育のところとややかぶる部分はあるのですが、成果指標のところ、どれぐらい活用できてるかとか、活用の方がどうだとか、子どもの学びがどうなったかといったあたりに、何か成果が出るといいなという感じがしています。

先ほどその情報教育のところでも申し上げましたけど、持ち帰りに向けてというので、明石市としてはもう一歩進めるための取り組み中かなというふうに思うので、ここはぜひ頑張っていたきたいなというのと、この中にも出てますけど、不登校支援とか含めた学びの幅広さみたいなのところに繋げていただけると、すごくいいだろうなという気がします。

これも、ICT 環境というよりはまた別の話に繋がってくるような気もするんですけど、ICT 環境の整備で、先ほどの資質向上のところとも関わってくると思うんですけど、市としてこうやる、使い方はこうだというような、何か上から下に与えてしまうと、そういう工夫が育たない部分もあって、ぜひ、試行錯誤する機会っていうのが各学校にあるといいなと思いました。

うちの大学院とかで、現職の派遣の先生の話を知っていると、表の利活用の促進って、普通の学校の指導力の高い、低いだったりとか、助言する、されるの関係をちょっとひっくり返すきっかけになるというか、若くて元気ないろいろ試したい先生が学校をリードできると思いますか、普通の授業改善だとちょっとそういうことをやろうとすると、指導の蓄積のあるベテランの先生あたりの意見っていうのが、やっぱり先に出てしまって、なかなか若い先生が自分の思った通りとか、自分の提案でことを進めるみたいな機会が取りにくかったりすると思います。しかし、一方で ICT の話って、そういうことを上手に拾ってあげると、自分たちの取り組みで学校が一歩進んだ経験みたいなのところに繋がって、すごく若い人に自信が出るんだという話を聞いてみたりすると、これは一つ、学校が試行錯誤するっていうのを好機に捉えるような何かがあるとすごくいいなと、市として前に進む部分が

あるかなっていうところをと思って、読ませていただいて議論を聞かせていただきました。

(西山課長)

いただいたご意見で言いますと、施設の関係で、計画性を立ててやっていくものと、緊急性があるものが、きちんと要望があったらきちんと対応しているっていうところについては、これは全然お見せできてないなというところは、少し思ったところもありますので、見せることによって要望が殺到するっていうつらさもあるんだろうなということも感じます。

施設に関しては、全体的にかなりお金が足りてないというところがあるので、おっしゃったように、現場で言ったところで通らないだろうということが多にあるんだろうなというのは非常に感じました。

ただ、本当に必要なものは対応するということころは、一定、根っこのところではお見せしないとイケないんだろうなということころは感じましたので、ここは学校管理担当が所管なので、しっかりとお伝えをしたいなと思いました。

あと、標準服については、前泉市長が力を入れていたところもあるので、当事者参画ということころは、特に泉市長は大切にしていたところでもありますので、おっしゃる通りそういった文化というか、そういったものを何か残していけたらなということころは、主権者教育とかにもちょっと関わるのかもしれないですけども、何かしら動きというか、温度感が残ってるうちに、次に繋げられるようにということころは、考えていくべきだなと思いました。

(三ノ浦係長)

それでは時間も迫ってまいりましたので、最後に、この度のヒアリングの実施方法を受けまして、資料等について何か感想や助言などがありましたらよろしく願いいたします。

(川上教授)

私、基本的には今年のやり方についてすごく好感を持って見ていました。指標についても試行錯誤しながら出してみて、事前の質問があってそれが公開されててっていうのも議論を実質化していく上で非常に良かったなと思っていますし、今回、特に今日ちょっとやり取りさせてもらう中で、やっぱりこれやっというてよかったと思ったのが、「成果指標に現れない成果」のところで、こういったことを書いておくことが、成果指標の見直しのときの具体案のストックになっていくといえますか、こういうところもできてたとか、こういうことが見えたよっていうのがちゃんと記録残っていると、例えば、成果指標があんまり適切じゃない気がするんだということを言われるだけだと、どうやって見直したらいいんだって話になりがちなんですけど、他にもこういう成果が取れてるんですよっていう情報がこっちに残っていると、では、これを何らかの形で指標にできたらもっといいものに差し替えますよねっていう建設的な話がしやすくなると思うので、これを置いておくことっていうのは、指標の見直しを進めるとか、指標の見直しのヒントを共有するっていう上でもすごく大事なことのようない感じがします。

この政策評価をしていくときに、やはり指標をどう取るかっていうのはすごく大事なんですけど、いきなり指標を考えろって言われるとなかなかアイデアが出ないのも実際のところかなと思うと、こういう取り組みをしてるとか、綺麗な数値ではまだ取れてないんだけどこういう成果が見えてるといったメモ書きがちゃんと残ってるっていうのは、次に考えるときのヒントになるので、細かな見直しを進めていく上でも、こういう欄を取って進めていくことについては、非常にいいなというふうに思っを見せていただいております。

成果指標と、取り組みやアクションプランとの対応関係というのは、今回、前回のご意見出てたところではあると思うんですけど、そんなに1回で全面的に見直しが利くものでもないし、アイデアもそんなに豊富に出るものでもないので、見直していきましょうというときに、この枠の構成をしておくというのは、すごく知恵がいっぱい入ってる感じになるんで、私はすごくいいなと思って見ていました。

あと、もう一つ感想ですけど、教育委員さんの積極性に支えられていると感じました。傍聴してた院生さんとかも、多くの意見が出ますねといった話をしていて、こういうのはすごく大事だなというふうに思います。ご対応される事務局の皆さんは、やはり準備がすごく大変な部分もあると思いますし、特に6月は議会と重ねて、この対応も入ってくるとなかなかしんどい部分もあったのかなという気はするんですけど、こういう意見が出てくる中で、質が良くなっていくことになるので、全体的にすごくいい見直しをされてるなという気がしていて、最後コメントをするのであれば、見直しが習慣化するといいなとか、なんかものすごく大きい見直しをたくさん進めて、向こう10年使えるかっちりしたものっていうようなことはあんまり考えなくてもいいかなという気がします。できる範囲の見直しを、毎年毎年続けていって、時勢の変化なり、状況の変化なりがあるわけですから、何か向こう何年も使えるかっちりしたものを、ここ数年で作り上げるというよりは、何か状況が変化したときに、きちんと出てきた知恵を使って、適宜見直しができるサイクルが作れるということの方が、よっぽど柔軟でいいなと思うので、そんな思いで聞いておりました。

(西山課長)

今回ヒアリングの項目を絞ったことについては、教育委員さんからは時間をもっとかけて全部やるべきだという意見も事前には一部の

方からあったのは事実なんですね。そこをちょっと悩ましく思っております。まして、ただ決算をご報告するタイミングは9月の議会というところを逆算すると、もうこれ以上の時間をかけてっていうところは事務局的にも難しいなというところで、今回とりあえずやらせてくださいという形でさせていただいたんですが、昨年度につきましては、とりあえず全部を走りながらやったところがありまして、今回、絞ったとはいえ、時間的には、そう余裕のある感じではなかった印象もありましたので、そこは一つ悩ましいなと思っているんです。

(川上教授)

それで言うと、これもまた大変なのかもしれないですけど、これを重点とするということについて一段階コミュニケーションがあるというのも一つかなと思います。

なぜこの項目を重点の中に入れていないのかという、前後をやるべきか、絞るべきかという話というよりは、この項目を会議の議題に挙げるかどうかというところで、成果も出ているので今回は重点とはしませんでしたといったような話だったり、ご意見を聞きたいような事情があるので、ここに取り上げましたというように、取り上げる理由、取り上げない理由といったところで一段階コミュニケーションがあったりすると、少し余計な話ですが、項目の入れ替えをしていくときの参考になると思います。

ここ何年も重点として説明の対象にもなってこなかったもので、ここは重点から下ろして、代わりにこの項目を入れていきたいと思いますので、そのような、項目数のトータルはそんなに増やせないと思いますので、そういった意味でいうと、そこのコミュニケーションをしつつ選ぶといったことをしておく、書面ヒアリングが何年か続いたものから順に新しい重点との入れ替えをするというような、全体図を見るうえで

もこういう枠組みのほうがよいのかなと思います。

気持ちとしてなんでも大事だというふうになるのですが、そういうふうにしていくと、下ろすときに非常に難しくなります。

やはり、重大事案があつて、柱を立ててというようにやるのですが、ここ3年重大事案がなかったから、この項目を下ろすという判断は非常に非常に大変だと思います。

ただ、それをしないと新しい状況には対応できないと考えたときに、少し総枠したような対応を蓄積しておく、これについては下ろしていいのではないかとといったような話が少ししやすくなるのではないかとといった気もします。

そういった意味では、きちんと重点にも重点をつけているのは大事なことだと思っております。

(三ノ浦係長)

正しい生活習慣のところ、指標がないのか少し意外だといったお話をされたと思いますが、実は上位プラン、教育プラン全体の指標として、生活習慣の指標をちょっと置いてしまってるというか、別の見せ方になってしまっているところがあるので、その辺りはアクションプランといいますか、この点検・評価シートの中でも、「朝食を食べている」といった話を、再掲というか、もう一度お見せするような形でしていく必要があるのかなというふうにこちらも捉えております。

(川上教授)

それがいいと思います。